

幸区区民会議第2回専門部会B「子育て・環境・魅力づくり部会」 摘録

開催日時 平成18年10月4日(水) 午後6時30分～8時25分

会場 幸区役所5階第1会議室

参加委員

専門部会B委員 今井淑子部会長、松世三重子副部会長、小島春男、庄司佳子、
菅野勝之、成田信子、根本健、深瀬和則
(欠席委員：小保方健次、酒井道子)

専門部会A委員 葉山直次

事務局(総務企画課) 高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員

(地域振興課さいわいコミュニティネット推進担当) 福田主査

(株)CSK 福田研究員

(以上 15名)

司会進行：事務局 北谷

開会(事務局：北谷)

本会議の情報公開に関する委員の了承。

配布資料、次第の確認。

第1回の部会で、各委員へ配布するよう依頼がありました資料につきまして、簡単ではございますが、ここで説明いたします。

1つ目は「平成17年度日吉分館施設・設備別利用統計年報(抜粋)」です。日吉分館の防音設備のあります第3・第4学習室の平成17年度の利用状況・稼働率について、表にありますよう約70%となっております。

2つ目が「川崎市民活動支援指針(抜粋)」です。第1回の部会で、市民活動を推進することの意義として、資料で4つの事項、公共サービスの質的な向上につながる、地域コミュニティの再生・再構築、市民ニーズ・市民意見を反映した活動ができる、いきがいや自己実現の場の提供になることを示しましたが、意義としては「区民生活が向上して、区民生活が豊かになる」ことが重要だが、抜け落ちているのではないか。何を元に行っているのかということでした。

『川崎市民活動支援指針』の表紙のウラ「はじめに」8行目にも書かれておりますように、「市民活動は、新たな意味での公的領域の担い手として、多様化・複雑化した市民ニーズに対応するとともに、個人の自己実現・新しい生きかたができる仕組として、今後、豊かな地域社会にますます重要な役割を果たすことが期待されている」。さらに、2ページの社会的役割の期待でもう少し詳しく記述されておりますが、この点を4つの事項で示したのですが、ご意見がありましたように「区民生活が向上して、区民生活が豊かになる」ことも重要な意義であります。

簡単ではありますが、以上でございます。

1. 審議テーマ「魅力づくりと市民活動の推進」について

事務局(高橋主幹)が配布資料を説明し、意見交換を行った。

今井 前回、「地域資源の活用と市民活動のネットワーク」、「音楽によるまちづくりの推進」の2つのテーマについて議論した。今回、解決に向けたまとめと実現に向けたアクションについて、踏み込んだ議論し、まとめたい。

庄司 市民活動のネットワークを広げようということで、日吉地区のネットワークを提案した。現在、「さいわい加瀬山の会」(市民健康の森)、「日吉郷土史会」、「夢見ヶ先ブレイパークを作る会」、「矢上川で遊ぶ会」の4つの団体が集まり、検討を進めている。

市民団体の連携と一言で言うと簡単だが、ネットワークの意義、向かう方向など目標を共有できないと、何をし、主体的にどう関わればいいのか見出せない。今日3回目の会をした。次世代育成、地域の財産を大事に思う気持ちを持ち、活動している人がいることを市民に伝え、自分も違う活動へと目が向いてくるような活動をしていこうということで、共有の認識ができてきた。具体的に何をしたいかが、検討事項になっている。

矢上川で活動をしている人は大勢いるので、活動している人の生の声を聞く。また、一般の人にも参加してもらい、活動の内容を伝えていく。周囲の人に認知され、活動の重要性を知らせていかないと、仲間うちだけのネットワークで終わってしまう。多くの人に、見てもらい、認識してもらおう機会をたくさんつくれたらと思う。テーマでつながるのではなく、地区でつながることで、いろいろな活動が見えてきておもしろい。多様な活動テーマがコラボレーションすることで面白さが生まれる。

松世 「夢こんさぁと」の団体に戻り検討した。できるものとできないものがある。場所もそうだし、演奏家を探すのもそう。まず、場所が演奏できる場所かどうか。人数がどのくらい集まるか。場所によっては、一般区民の人たちが自由に出入りできるか特定の人しか入れないのか。

コラボレーションできればいいが、どのような形にするかが見えてこない。音楽をやるだけか、そういったものをPRしながらできることが何かあるのか。その辺を深く考えないと、ただやったということで終わってはもったいない。

他の団体が何をしているかが具体的にわからないので、その辺がわかるとよい。そこに音楽を入れていくなら、実際にやるのは自分たちの団体がやることになる。たとえば、庄司さんの「市民健康の森」の人たちがどう関わるのか。一緒に会議をし、進めていかないといけない。

成田 若い世代の人は、働いていると行政と関わるのが難しい。税金をただ払っているだけで関わっているとは思わない。20~30代になり、子供をもつと、行政と関わっていることに気づく。場があると視野が広がる。自分の地域であればいいが、他所だと行くのが難しい。一つのことを作り上げるのは、素敵なことだと思う。多様な意見が出るので、難しいとは思いますが、つながっていくことの重要性を認識できるとすばらしいことだ。地域ごとにネットワークができるよい。地域資源について、小学生がまち探検をしている。その中で、いろいろな人の話を聞くと身近になり、子供たちも成長する。

深瀬 加瀬山の下の方に住んでいる。実際に加瀬山の会があることを知らなかった。生まれてからずっと南加瀬に住み、加瀬山で遊んでいるが、活動を知らない。南加瀬に住んでいても、活動を知らない人が大勢いるので、一部の人の集まりではなく、わかっ

てもらう。そのための活動は必要だ。

根本 庄司さんを手伝っているので流れはわかる。問題は別のグループの人たちに、どう理解させるか。理解できずにいくらやっても、正面的にその日は成功するが、10年、20年と地域に浸透させるには並大抵の努力ではない。やる側の問題が重要だ。

総合的に他のグループとやるには、それなりの準備期間が必要。やったけど、うまくいかないからやめようという声が出る。何回失敗してもやると決めれば、あの人たちがやっているのだから、まちがよくなるのだからと認識されるようになり成功だ。

小島 何か事をするのは大変なことだが、やらなくてはいけないことはやってみて判断した方がよい。やらないとだめだ。

今井 「モデルを設定して、ネットワーク化を進めよう」とキャッチコピーの例があるが、進めることも大変だし、ネットワークすることに意義があるという視点がないと難しい。ネットワークすることがいいと実感すると、どんどん広がる。

深瀬 モデルを設定するとはどういうことか。

今井 モデル地区をつくり、試してみるということではないか。

根本 庄司さんと一緒にやっているが、日吉地区では、館の人とプログラムに沿って6回、別の項目で入っている。「日吉地域の市民活動ネットワーク」とあるが、中学校区をモデル地区とすれば、スタッフは大変になる。中学校区になると5箇所必要になる。とりあえずはモデルケースとして、どこか一箇所つくってどうなったか。みんながよかったとなればよい。そうならなかったら、別の形でまたやってみる。そうすることで、それなりの成果がでる。とりあえず設定して、一箇所をやってみる。

自然の保全ではなくても、音楽にも同じことが言える。音楽は今まで実施しているところはそのままだよることにし、新たにやる場をモデルケースとし、そこでどんな反響があるかを見る形でやればよい。今までの物を壊すのではなく、新しい形でやる。

松世 屋外では、ソリッドスクエアや新川崎三井ビルディングのロビーで「夢こんさあと」を開催した。日吉合同庁舎では年に2回。加瀬の人たちになかなか来てもらえないので、交流を持ちたい。加瀬山でやってもいい。

ネットワーク化を進めるというが、音楽を通してどういうことをやるのか見えてこない。いろいろな人が来るので、どんなことをやっているかがわかり、日吉地区でこういうことをやっているなら、御幸でもやろうと広がるかもしれない。

根本 室内だけでなく野外も入れる。区役所の前の広場は花壇があるので狭いだろうか。

松世 昼間なら音を出しても住民の了解を得られる。加瀬山なら問題ない。

根本 住宅のたくさんあるところでは、やさしい音の曲を選曲すればいい。

松世 音響の問題があり、静かだと響かないという問題もある。

根本 外の方が参加しやすい。

成田 野外音楽堂のように響く所ならいいが、できることとできないことがあるだろう。

根本 演奏している人は、どういう状況が最善かわかる。多摩区では野外でやっている。

自然の中でやるのはいい。

松世 木と木に囲まれていると、良い響きになる。

根本 テストケースとしてやってみる。何回かやってみて変更してもよい。

今井 モデル地区ではなく、モデル的に協力してイベントを開催してみるという捉え方も

できる。音楽を取り入れたらいいというものに参加をしてみる。今まで単独でやっていたよりも効果があれば、ネットワークの意味がある。

庄司 必要とされる場が出てきたときにやるのが一番いいと思う。

中学校区というと、歩いていける距離なのでいい。歩いていける距離は子供が参加でき、まちの中で顔見知りの人たちが参加する。地区ごとにいろいろなつながりがある。今あるものを基盤とし、違う層の方に呼びかけてネットワークする。顔の見える関係を介して始めていくのがよい。

今井 日吉地区と河原町団地とあるので、二つをモデルとしてやってみるのはどうか。小さいことでもいいので、モデル的にやる。

河原町団地でこうしたいというイメージはある。河原町団地の高齢化に合わせて、イベント的なものでもいいので何かやってみたい。日吉地区もいい。河原町団地にもいい場所がある。団地祭のときに、おみこしが出発する広場がある。団地の中で了解が得られれば、広場がコンサート会場風になっている。そこなら、みんな寄ってこられるし、広いスペースなのでコンサートができるとうい。

もうひとつは緑道。可能なら二箇所。一箇所だと来にくい人もいるので、二箇所で開催してはどうか。

9月10日に、市民交流フォーラムを「幸市民交流プラザ」のオープンを記念して開催した。スタートしたてなので、こういうものがありますと伝える力がなく、大勢の人が集まったが、もっといろいろな人に協力してもらえればよかったと思った。そういうときに何かできるとよい。

庄司 モデル地区という形で設定し、みんなに応援してもらい、見てもらえるだけでもやりがいになり、続けていこうという気になる。新しい人が参加する糸口になる。

今井 モデル地区を設定して、モデル的なイベントをやってネットワーク化の意義を考えようというのはどうか。“幸区の特徴を生かした取り組み”と合わせてしまう。

庄司 “ネットワークのよさを広めよう”など、二つ合わせて一個のキャッチフレーズを設定するのはどうか。

深瀬 実現に向けたアクションの例で、例えば、加瀬山でコンサートを企画したときに、庄司さんがやっている人、今井さんがやっている人が協力してやるというイメージなのか。

今井 それによって、いろいろな団体が参加しネットワークが生まれる。ただコンサートをするのではなく、子育てをするとか、何かうまく合わせてできることがある。

深瀬 ネットワーク化というのはそう考えていいのか。いろいろな団体に協力してもらおうことなのか。

今井 ネットワークの名簿ができなくても、つながりができればそれがネットワークになる。何かしようというときに、また集まってくる。

松世 音楽を聴きにきた人が、他の活動を見て入りたいということではないか。

今井 個々の団体が別々にやるのではなく、一緒にできるとよい。

深瀬 夏休みに加瀬山で日吉祭りを、商店会と町内会がやっている。日吉商連としてもネットワークに入る。加瀬山でコンサートをするときに参加し、日吉町連の活性化になるようなことをやる。いろいろな団体が一緒になり、コンサートをすれば、地域の人

たちに参加してもらえらる。

今井 どういうモデル的なイベントをするにしても、モデル地区でやるにしても、提案と
いうかお願いがある。「さいわいコミュニティサイト」を7月に立ち上げた。サイトには
イベントの予定が掲載できる。町内会の情報、商店会の情報、市民活動団体のイベ
ント情報などを載せると、それだけで小さな協働が生まれる。先日、子育て中のお母
さんに、こういうサイトがあることを知らなかった、どうして知らせないのかと言わ
れた。子育てイベントカレンダーがある。区民にとっては、大変役立つ。カレンダー
だけで、小さな協働ができる。

深瀬 音楽を中心にしたキャッチコピーがよい。

松世 今日の会議資料として、ちらしを2枚配布した。10月にコンサートをする。協働で
何かするときには、「夢こんさぁと」の他に、協働の相手を書き入れるという手法もあ
る。

菅野 ラゾーナには、250人と500人の会議室がある。

深瀬 会議やコンサートなどいろいろ使える。

小島 使用料が高い。

菅野 入場券をとると、さらに高くなる。

小島 無料だと安く貸してくれる。

松世 プラザソルで開催するのが出張コンサートのイメージだ。プログラムやチラシの作
り方も工夫しながらやっていく。実行委員会の会議にも出席してもらわないといけな
い。市民活動を説明してもらわないと、私では、何て説明していいかわからない。

成田 意義、コンセプトが一緒でないと、まとまらなくなる。

松世 どういうネットワークをするか示さないといけない。

深瀬 「夢こんさぁと」の実行委員会は何人か。

松世 6人で、それぞれ役割を分担している。

庄司 二つのキャッチコピーを一つにする方向で考えよう。一緒にやることはいいことだ
が、音楽もネットワークを組む中で一緒に取り組むようにしないと、個別では厳しい。
ぜひ、一緒にできることはやってきたい。ネットワークの中で了解を得て取り組む。

今井 モデル地区を設定してということであれば、河原町団地がコンパクトにまとまって
いるのでいろいろできる。音楽もできる。ITの施設もあり何でもできるので、ぜひモ
デル地区に使うのはいいと思う。

オープンが9月なので、まだ何も活動をしていない。ITに特化した施設だ。川崎市
の中でも珍しい。すぐ横が緑道。隣に保育園もある。緑道か広場でコンサートをでき
るとよい。住民の了解が得られれば、どこでもできる。

「さいわいコミュニティサイト」だけを見られるようにする。コミュニティサイトを
見られれば、情報が得られる。サイトを見られるだけの取り組みをしたい。

深瀬 企業に協力してもらいパソコンをもらう話はどうなったか。

今井 東芝に上半期分として8台もらった。どういう形で配布するのがよいか検討中。自
治会の中の役員がいいか、全体から募集するのがいいか。

使い方は、難しいことはやらず、サイトを開いて見ることを講習する。マニュアル
もある。幸区の情報全部とれるようにする。河原町団地では、回覧板を見られるよ

うにする。回覧版を回してしまった後でも、自分の家で見られるようにする。そのために、東芝からパソコンをもらう。

深瀬 将来的には、すごい数になるのではないか。

今井 世帯数を東芝に伝えたら驚かれた。すでにパソコンを持っている人もいる。新しいものを買いたくないという人はそれでいい。体が不自由になっても、家で情報がとれる状態にしたい。

成田 キャッチコピーは誰が見てもわからないといけない。モデルというと地区とケースの両方に取れる。

深瀬 地区の方がいい。

今井 モデル地区にするなら、“モデル地区を設定し”とする。

庄司 日吉でも動きだしている。私も地区の方がわかりやすいと思う。

今井 “モデル地区を設定して、ネットワークのよさを広める！”

“音楽など、幸区の特徴を活かした取り組みを！”と例にある。幸区が取り組んでいるのが、音楽だ。幸区らしさは他にも、もっとあると思う。一番わかりやすいのが音楽なのか。

松世 来年度の予算を要求するには、年内に決めないといけない。やるということが決まれば、実行委員に諮り、組み入れた形で来年度にもっていく。決まらないと、来年度はなしという形になる。

庄司 コラボでやることの具体的な案を出さないといけない。

深瀬 河原町団地でいい。次に加瀬で実施する。

菅野 「夢こんさぁと」をするということで、場所の選定などは、いくらかの融通はきくだろう。

松世 出演者の依頼を年内中にしないと難しい。12月いっぱいには決まらないといけない。月によって演奏家がだめな月がある。空いている日にちを挙げてもらう。

今井 何か具体的にイベントをやってみるのであれば、上半期に一回、下半期に一回。

松世 加瀬山でやるなら何月頃がいいのか。季節的に雨の降らないのは5月。気候のいい時期、暑くてもだめだ。その辺を考慮しないといけない。

今井 河原町団地と日吉地区のモデル地区を設定し、上半期、下半期でイベントをする。

松世 「夢こんさぁと」は定期的にやっている。区役所で偶数月第3木曜。日吉は年に2回。奇数月で演奏家が空いているところ。そこに2回増えると10回になる。

今井 増やすのがきついなら、区役所でやっているのを移してもいいが。

松世 区役所が最初の基盤なので、崩したくない。月に2回開催する場合もあるので問題ない。

今井 実現に向けたアクションは、何か提案はあるか。“日吉地域の市民活動ネットワーク”でいいのか。

菅野 だめとは言わないが、郷土史関係のサークルだけでも日吉に6つある。市民館にもあり、全部で区に7つ。一つの会だけ入っていると、他のところは何というか。「まちづくり推進委員会」は、区民13万人を頭にいれて取り組んでいる。ネットワークは何のためにするのか、区民のためか、団体のためか。

今井 あくまでもアクションの例であって、こだわる必要はない。

深瀬 菅野委員がいうように、難しい面もある。

菅野 その人たちの顔をつぶさないことを念頭に置いて活動している。それが第一義だ。顔をつぶさない形で何かできることがあるかが目的だ。

深瀬 団体のためではないが、団体の人に協力はしてもらわないといけない。難しいが何とか打破したい。

庄司 市民活動ネットワークに入らない人はどうするのか、ということになるので、まず、つながれるところからやっていく。足元からやっていこうとしているので、市民活動ネットワークと大上段にかまえるのはどうか。地域資源を活かしたネットワークづくりくらいがよいのではないか。ネットワークの名称が決まったら、それに替えていけばよい。将来的にいろいろな人に入ってもらえる。最初に作った人のためではなく、最初の人種を蒔いただけで、後から入ったから狭いという会ではなくしたい。

今井 “市民活動拠点の活性化とシニア人材活用”は、すぐにはこういかないので、「さいわいコミュニティサイト」を活用してみようではどうか。

深瀬 シニアのサークルはいろいろあるのか。

今井 社会福祉協議会に登録しているサークルもあるし、いろいろあるのではないか。

深瀬 仕事で身に付けたもの、あるいは仕事以外で身に付けているものを生かしてもらおう。

庄司 人材バンクのようなものだ。

今井 人材バンクにもコミュニティサイトを利用してもらいたい。募集、参加という項目があるので、募集をかけてもらうと応募がある。つなぎ役を果たす。出かけて行って探すのは大変だ。人材募集の欄があることを知ってもらわないと話にならない。“さいわいコミュニティサイトを活用してみよう”など。

庄司 本当にいいところなので、触れた方がよい。

今井 「幸市民協働プラザ」と「さいわいコミュニティサイト」を活用してもらおう。商店街の売り出し情報を知りたいという人がいれば、それを掲載してもよい。祭りの情報も入れて欲しい。

根本 例の中で、“健康づくり、子育て支援との連携など、特色ある音楽会の開催”とある。やる側としては、実際にどの程度、どういう形で、どういう方向性がいいのかという気がする。身近な場所の出張コンサートは実質的にはスタートしている。新しく河原町と日吉ということで問題はない。準備期間がないと大変な思いをする。来年度すぐでなくても、がっちり企画を立て、方向性を示してやった方がよい。

成田 読み聞かせの運動について、次回以後検討することになっている。子供のためのBGMとして、読み聞かせをしながらできたら素敵だ。そういう形の方が参加しやすい。大人の読み聞かせ、子供の読み聞かせをやっている。

今井 話し合えば、すぐできそうだ。

根本 受け入れはできるが、やるのは大変だ。

今井 子育て支援に絞るなら、読み聞かせに、たとえプロの人に来てもらわなくても、やってみることでイベントになる。音楽は子供の集中力がつく。読み聞かせは素晴らしい。プロがやると、本が身近になる。音楽と読み聞かせと両方プロが来ると負担がかかるので、“健康づくり、子育て支援との連携...”は子育てに重点を置き、“身近な場所での出張コンサート...”は「夢こんさあと」で考えるとよい。

松世 特色ある音楽会というのは場所のことか。子育ての講演会と演奏会を合わせてやるのもいい。健康づくりも、医師を呼び、健康についての講演会をしたあと、演奏会をする。オープニングに演奏会をしてもよい。加瀬山で朝の体操をしているので、そこに入り込んで演奏会をしてもよい。

ただ演奏を聴いて終わりではなく、プラスアルファをつける。いろいろな形で演奏会ができる。

今井 二つ並べても問題はない。出張して、特色ある場所でやるということ。

松世 出張して入り込んでやる。身近な場所としては、日吉なら公会堂がある。地区の人が聞きに来る。そのときに、老人のこと、子供のイベントなどを実施する。

庄司 細かいことまで決めなくてもよいのではないか。ステップがある。

菅野 詳細は「夢こんさぁと」の実行委員会で決定してもらおう。こういう形でお願いしますということ、あとはお任せする。

松世 場所だけでもどういふところがいいか、案を出してもらえれば話をしやすい。

庄司 日吉地区社協にチャンスがあれば、声をかけることはできる。

松世 できるかどうかは実行委員との相談だ。

根本 公会堂は、80 から 100 人入る。建物によって、もっと大きいところもある。

庄司 小学校の体育館もある。

根本 小学校単位か中学校単位でやれるとよい。

今井 河原町団地の中に廃校がある。

松世 「夢こんさぁと」は、来年 10 周年を控えているので、実行委員にどの程度承知してもらえるか。

松世 実行委員に諮って、具体的にここでと決まれば、みなさんに協力してもらおう。

今井 他に考えられるものはあるか。

根本 区役所と塚越中学校の生徒、下平間小学校の生徒が、環境教育の一環として花を世話している。区役所の前庭は入れ物なので、入れ物ではない花壇をつくりたい。「さいわい花クラブ」でやっている日でもいいし、やらない日でもいいが、野外でコンサートをすれば、雨が降らない限りは、いろいろな人が集まる。ただし、演奏家と何度も打ち合わせをしないと失敗する。私たちのメンバーだけでなくともよい。音楽で人を集めて、そこに花を組み入れる形でもよい。長くやれば、方向性が出てくる。

今井 緑道で子供とシニアと一緒に土いじりをするのもよい。

根本 緑道は民間でやっている。役所が入っていない。

菅野 神明町だけは町内会でやっている。町内の老人会がやっていたが、人が減ってきた。

根本 若手をいかに育てるか。今やっている人たちはがんばっているが、次の世代をどうするかが絶えず付きまとう。

菅野 趣味でやる人はいる。パークシティでは、枝の剪定が 1,000 万円かかる。400 万円分は緑化部隊のボランティアがやり、残りは自治会が負担している。

小島 資料の例にあることを実施すればよい。

根本 できるものもあるが、できないものもかなり含まれる。

松世 コンサートは、こちらで場所を決め、できれば 2 箇所。できない場合は 1 箇所にする。そのときに、市民活動ネットワークと協力して開催する。

2. 第2回区民会議への報告方法について

第2回区民会議での、専門部会Bの報告内容案について、事務局（高橋主幹）が配布資料を説明し、意見交換を行った。

事務局案を、本日の意見を踏まえて追加・訂正する。部会長と相談の上、事務局で本日の結果を踏まえて修正したものを各委員に送り、全体会の前に事前に確認をしてもらい、最終版を作成することで確認した。

3. その他

(1) 企画運営部会報告

9月19日（火）に開催された「企画運営部会」の結果を、今井部長が報告し、内容を確認した。

菅野 区民会議運営要領は、いつ送られてくるか。できるだけ早く送って欲しい。

事務局：高橋 できる限り早めに送るよう努力します。

葉山 「5 協働推進事業の区民会議での取扱いについて」で、協働推進事業は報告の事項とするとされているが、「意見を述べることができる」という項目を入れたい。

夢こんさぁとの予算などの話を聞いていると、意見を述べ、役所にとりあげてもらうということにしたい。

高橋 本日は、今井部会長は企画運営部会に出席しているので、概要を報告してもらっていますが、正式の報告は、全体会で企画運営部会の葉山部会長か庄司副部会長から行ってもらう予定です。全体会の前に、そのような内容をご確認いただきたいと思えます。

菅野 20人の委員の共通基盤が何なのか。思想も信条も違う人が集まっている。基盤となるのは、条例、法律しかない。地方自治法が最低限の基盤であるから、次回配布して欲しい。基盤をきちんとしておかないと、各自が言いたいことを言って、まとまることもまとまらない。

事務局：高橋 本日は葉山委員長に出席いただいておりますが、地方自治法の配布について、全体会の前に、先ほどの確認（協働推進事業）と併せて取扱いを検討いただきたいと思います。

(2) 第3回専門部会の開催について

第3回専門部会Bは、以下の日程で開催することに決定した。

開催日時 11月22日（火） 18:30 開会

会場 幸区役所第1会議室

閉会